

「100%段差なし」は半数
近畿圏の鉄道 23 路線で（国交省）

国土交通省はこのほど、2010 年度末時点での「公共交通の快適性・安心性評価指標」について、近畿圏の鉄道・バス事業者を対象とした計測結果を公表した。それによると、段差のバリアフリー化率 100% を達成している鉄道は、対象 23 路線のうち 11 路線と半数程度だった。

指標は、段差のバリアフリー化率やノンステップバス導入率、情報の分かりやすさ、連絡のしやすさなど 9 項目。近畿圏の鉄道事業者 7 社 23 路線と、バス事業者 9 社を対象に計測した。

ノンステップバス導入率が 30% を超えたのは 5 社。全体として増加傾向にはあるものの、10% 台の事業者もあるなど、ばらつきもある。

情報の分かりやすさでは、ホーム・駅構内・車内

での LED 電光掲示板などの情報提供装置の設置率を計測。設置率が 80% を超えたのは駅構内では 18 路線だったが、車内では 9 路線、ホームでは 4 路線だった。

また、連絡のしやすさの点では、駅員が常駐したり、インターホンなどが設置されているホーム数が 80% を超えたのは 18 路線。車内での連絡のしやすさを示す車内インターホン設置率が 80% を超えたのは、11 路線だった。

同省は指標の目的について「事業者間比較ではなく、それぞれの投資実績の推移を分かりやすく示すこと」としており、快適性・安心性の確保には指標以外にもさまざまな取り組みが必要だとしている。

（福祉新聞・2572 号 2012 年 4 月 23 日）